

安心なき社会 若者の常識



1973年生まれ。早稲田大学大学院非常勤講師。近著に『代表制民主主義はなぜ失敗したのか』（集英社新書）。

藤井 達夫さん 政治思想研究者

新自由主義の社会では、誰もが企業家のようにならなければならない。自己責任でリスクを管理し、競争し、投資し、打ち勝つ。しかも、自己責任の原則。2004年のイラクの人質事件の時、自己責任という言葉が蔓延したのが象徴的だった。いまの若者が熱心につくのは、そんな新自由主義的なメンタリティーが当たり前になっていた。若者がどうも新自由主義はテロルト、初期設定なのです。小さな政府、規制緩和、民営化。中でも影響大きかったのが雇用の規制緩和です。非正規労働者が増え、富の偏りが生じて、格差社会になった。別の社会のありようを知らない若者たちは、これが社会かと思ひ込んで、これが大学の授業で、貧困は自己責任では解決できない。社会網を張るべきなのに、公務員

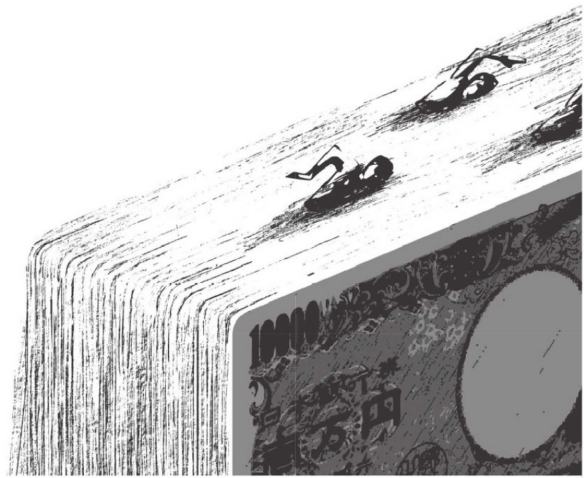
大きな政府より現場の力



1974年生まれ。外資系投資銀行や国連児童基金などを経て、2014年に全寮制国際高校を転機に開校した。

小林りんさん ユナイテッド・ワールド・カレッジS.A.K.ジャパン代表理事

貧富の格差拡大などの新自由主義の弊害は、昔から指摘されてきた。コロナ禍で格差は深刻化し、その是正がさらに急務になっているのは間違いない。私は、東京郊外のニュータウンで育ち、1990年代初頭、奨学金を得てカナダの全寮制の高校に留学しました。そこで仲良かった友達も、マンションにある自宅に遊びに行き、圧倒的な貧困を目撃して衝撃を受けたことが、現在の活動の原動力になっています。その後、格差の再生産を是正する最も有効な方法は教育だと確信し、国連児童基金（ユニセフ）の職員として、イギリスでストリート・レインの教育に携わりました。いま、世界中から生徒が集まり、その7割に奨学金を出している全寮制の学校を転機に運営しているのも、よほど



各党でずれた言葉の意味



1967年生まれ。北海道大学教授。専門は「国際社会動向研究所長」。

橋本 努さん 社会学者

衆院選では、自民党も立憲民主、新自由主義からの転換や脱却を掲げました。しかし、新自由主義という言葉の意味するものは、安倍晋三政権で自民党はベラル化し、新自由主義は後退していった。高た。「大きな政府」という言葉の意味するものは、北欧式の新自由主義に近い発想がある。岸田文雄首相で見る、2008年（民主党）の「新自由主義」とは、しかし、その後は着実に